

清水町総合計画審議会 会議録（要約）

日時 令和2年11月20日 19時00分～20時47分

場所 清水町役場庁舎2階 庁議室

【出席者】

委員：丸山良三、残間一憲、氷見隆雄、宮澤真二、和田聡明、桑尾達也、
高橋利幸、上谷明美、伊藤亜砂子、寺内麻紀、大東孔美、林緑
(欠席：尾崎俊明、表裕一郎、梶深雪)

事務局：企画課長（前田真）、企画課長補佐兼統計企画係長（川口二郎）
政策企画主事（谷口瑠奈）、政策企画係主事（木村翔）

傍聴者 0名

記者 0名

1 開会

2 副町長あいさつ

お忙しい中、清水町総合計画審議会にご出席いただきありがとうございます。

昨年から長きにわたって取組んできた、総合計画の策定ですが、いよいよ本日最終案をみなさんに諮問し、答申をいただく最後の会議となりました。

清水町では、約1年半の期間をかけて、町民の無作為抽出による住民協議会「清水ミライ自分ごと化会議」を開催し、学生から子育て世代、高齢者等、様々な町民とたくさんの対話を重ねてきました。

先日みなさんに郵送した総合計画は、そうしたたくさんの町民の想いが反映された計画書でございますが、さらに、10月16日から一月間パブリックコメントを実施したところ、9名から38のご意見が寄せられたところです。

また、平行して行った各種団体やまちづくり懇談会は、各種団体とは20団体113名、農村部等各地域とは13団体61名の参加があり、様々なご意見をいただいたところです。

これらの意見がどう反映されたかこのあと事務局より説明をさせていただきます。この計画は、町民みんなの想いがたくさんつまった清水町のミライ設計図です。

委員の皆さんにおかれましては、たくさんのご意見を頂戴したいと思っておりますので、ご審議のほどよろしく申し上げます。

3 会長あいさつ

本日は何かとお忙しい中、清水町総合計画審議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

9月15日以来、約2月ぶりの審議会の開催となります。

今回は、総合計画の全体構成と、清水ミライ自分ごと化会議からの提案について事務局から説明があり、委員のみなさんからたくさんのご意見をいただいたところです。

その後、それらの意見が反映された計画案が10月下旬にみなさんのところに、送付されているものと思います。

先ほど、副町長からお話がありましたが、この2月間、パブリックコメントの実施や、まちづくり懇談会を多数開催し、更に、たくさんのご意見をいただき、計画案を修正し、本日みなさんに、最終案が配られています。

総合計画策定前の最後の審議会となりますので、皆さんの活発な意見をいただき本日の審議会を円滑に進めて参りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

4 諮問

5 協議事項

(1) 第6期清水町総合計画（案）について

(事務局より説明)

(2) 意見交換

(残間一憲)

総合計画審議会は全ての業種が網羅されている会議となる。この会議に議員に参加していただく流れを作っていくことで生の声を届け、温度を感じて欲しい。実施計画の計画期間が4年間となっているが、スピード感を持って対応しなければならない時代のため、もっと短期間に結果を出すことや事業の中止、方向性を変えるなどを考えなければならない。もっとアンテナを張り巡らすことでより町民の声や情勢によって柔軟な対応をお願いしたい。

(前田企画課長)

議員に聞いてほしいということは同感に思う。呼びかけてみたいと思う。計画が時代に合わないのであれば、スピード感をもって修正する話についても同感である。ともすると役所は住民の声に対応することよりも計画を守ることに重きをおいてしまうことがある。毎年度の予算や補正予算に絡めながら、時代に合わせた柔軟な対応をし、住民生活に密着した迅速な対応に努めていきたい。

(上谷明美)

井戸水の話もそうだが、役場の横の連携ができていないと感じる。温度差があるため、

他の課と連携し、縦も横も風通しをよくすることでより良い町になるのではないかと。

(前田企画課長)

横の連携がとれて、相手の立場に立った話ができれば誤解が少なくなるかもしれない。組織横断的にやることを行政運営の柱として基本計画に加えさせていただいている。相手にわかりやすい回答やサービスに努めていきたい。

(宮澤真二)

パブリックコメントの意見が多く驚いている。検討結果を見ても、修正を加えていることが多く、とても良いことだと感じている。計画の中で新規事業者数の目標設定がされているが、町のなかの空き家やシャッター街を見ると、もう少し目標を高く持ってもいいのではないかと感じた。道の駅設置事業から情報発信拠点整備事業に変更されているが、どういう違いがあるのか教えてほしい。

(前田企画課長)

事務局としては、いただいた意見は全て反映をさせる方針で考えている。新規事業者の目標設定については、現在は0件のため、せめて1年に1件はという思いから努力目標のような形で目標を設定している。道の駅設置事業が修正された理由については、道の駅設置事業は検討している状況であり、具体的なことは何も決まっていないため、情報発信拠点整備事業としている。曖昧な表現となることをご理解いただきたい。

(林緑)

清水公園の再整備については、スピード感を持って取り組んでほしい。空き地空き家については、月に数回何かを販売できるスペースや子どもが放課後使えるなどの使い方を考えても良いのではないかとと思う。いろいろな選択肢を考えてほしい。にんにく祭りで森崎博之さんが美味しいものが多く、公園も素晴らしいと言ってくれた。住民が当たり前と思っていることを素直に素晴らしいと思えなかったことが残念に思う。まちの将来像を実現することで、満足度の向上につながると思う。

(前田企画課長)

公園については来年度から遊具の更新等考えていきたいと思う。清水公園の再整備はできるだけスピード感をもって進めていきたいと思う。空き地空き家については、様々な方法を考えなければ、活用されないと思っている。不動産を持っている人とのコンタクトをどのようにとるかが課題となる。商店街が活性化するように考えていきたいと思う。清水町の良さが内外ともに発信されていないという意見が多かったため、まずは自分たちが町の良さに気づいてもらい、町のミライを築いていくという思いでキャッチフ

レーズを考えた。役場職員も同じ気持ちで取り組んでいきたい。

(桑尾達也)

基本的方向それぞれに「します」と標記されている。これらをいかに具体化できるか。吸い上げをした意見を実現することが町民にとっては重要となる。また今後の取組みの持続にもつながると思う。予算もあるため、優先順位を見極めながら具体化していくことを期待している。

(前田企画課長)

1人ひとりの想いを具体化することは大事だと思っている。他の職員にも伝えて、みなさんの意見を具体化させることをしていきたいと思う。

(大東孔美)

以前に幼稚園父母会との懇談会で意見を出したが、予算の都合上できないとスルーされたことがあった。少年団の関係で昨年からは御影にバスを出してもらっている。すぐに対応をしていただいた。このスピーディーさが大事だと思う。

(前田企画課長)

財政的な理由で断ることが簡単のため、他に理由があってもお金を理由に説明することが多い。できない理由を丁寧に説明しないことが問題だと思う。これから行政職員ができない理由を説明するときには、お金以外の説明をするよう職員に伝えていきたい。スピード感については役場職員がアンテナをどれだけ張り巡らせることができるかが、重要だということを肝に銘じていきたいと思う。

(氷見隆雄)

役場に話をしても意味がないという人が多い。縦割り行政ではなく、横の連携をしなければならない。対応する職員によって、対応がばらばらであることが問題である。総合計画を達成するためには、様々な業界を巻き込んで、1つずつ達成をしていくことが大事ではないかと思う。

(前田企画課長)

自分の狭い守備範囲だけで対応をする職員が多いことは事実だと思う。相手の立場に立った対応のできる職員の資質を上げる。また組織としてどう横の連携をとっていくか考えていきたいと思う。様々な業界の団体と足並みをそろえて、それぞれのできることを目指していく。

(寺内麻紀)

この計画がどれだけ現実に実行できるのかが問題となる。役場の最大限の努力がなければ達成できないことが多いと思う。企画課以外の課は直接町民の意見を聞いていないため、役場全体で情報を共有することが大事だと思う。町民も含めて町全体でがんばっていけるように役場から盛り上げてほしい。計画の実行のためには役場は受け身だけでなく、働きかけをすることも必要となってくる。総合計画を役場全体で共有し、みんなで作ってあげてほしい。

(前田企画課長)

このような会議については全ての課に情報を回覧している。しかし、文字にすると熱が伝わらないと思う。住民の意見を聞くことは貴重なため、できるだけ役場職員全体で共有することで計画の実行につながると思うため、努力していきたい。

(高橋利幸)

新型コロナウイルスが流行しており、自粛が続くなか町が発展できるようなゴールを見つけて、そこに向かっていけるようなまちづくりをやっていただきたい。

(前田企画課長)

新型コロナ対策や町全体の経済対策は個人の力で取り組むには限界があるため、役所が中心となって、取り組むことでうまくいくことがたくさんある。しかし役場の思いだけでは違う方向に行ってしまう可能性もある。アンテナを高くして、町民の想いを尊重しながら、取り組まなければならない。行政が得意な分野は責任をもって取り組んでいきたいと思う。

(伊藤亜砂子)

活字になってしまうことで、情報がそれぞれの担当に入っていないことがある。役場は人数が多く、横並びは難しいため、会議を動画で共有するなどの情報共有を試みてはどうか。活字だとわかりにくいため違う方法で伝えていければ良いと思う。商店街のにぎわいの部分で空き店舗活用について企業誘致や移住、高校生の就職先などを絡めることでより良くなっていくのではないかな。

(前田企画課長)

今年うっちゃんねるという Youtube チャンネルを始めているため、これを含めて動画配信について考えてみたい。コロナの影響で清水町全域に光回線を整備することができるとなった。それらのメリットを生かして、大きな会社ではなくても良いので空き店舗等に誘致できると良いと思う。また何か1つすることで複合的にいろいろな交流

が進むのではないかと思うため、努力していきたいと思う。

(和田聡明)

住民異動の際に、ワンストップで各種手続きができたため、良かったと感じた。これ以外にも横の連携を強化して対応していただければと思う。人口が減少していくなかで、新しいものを取り入れていくことが重要になる。情報発信をうまくやることで、移住等にもつながると思う。また働く場所がなければ人は集まらないため、新規の企業誘致だけでなく、既存の事業者を残していける行政サービスも必要となる。PDCAサイクルが4年間は長すぎるため、短期間で検証をしていく仕組みが必要だと思う。

(前田企画課長)

相手の立場に立ったワンストップ対応や自分で対応できなくても、他の課と連携をして情報を適切に提供できる能力を身につけなければならないと思う。新しい困りごとに対応できる職員にならなければならないと感じている。働ける場所については先進的な自治体では自治体版ハローワークを行っているところもある。移住者にとって、住む場所と働く場所が重要となるため、これをないがしろにしないよう対応していきたい。実施計画の見直しは町長の任期に合わせて4年としている。基本的には毎年予算作成があるため、これに合わせて1年ごとにPDCAサイクルを考えている。迅速に対応することに慣れていかなければならない。

(丸山会長)

総合計画の基本構想や理念については良いと思う。具体的な施策については十分に町民の意見を聞きながら、スピード感を持ってやっていただきたい。道の駅の要望がすごくある。清水町をどのようにPRをしていくかが大事となるため、検討してほしいと思っている。

(前田企画課長)

道の駅の場所をどこにするか検討を進めている。道の駅設置にあたって、自治体が設置主体となることや2つ作るのであれば10km以上離さなければならないなど一定のルールがある。国道沿いに飲食店が多いため、民間企業と一緒に道の駅を作ることも1つの選択肢だと思っている。行政単体で作ることは経営上リスクがあるため、民間と連携をして道の駅を作ることを内部で協議している。

(高橋利幸)

空き店舗を活用したいという人がいた場合に、用意できる空き店舗があるのか。

(前田企画課長)

シャッターの閉まっている空き店舗はたくさんあるが、自由に使って良い空き店舗はおそらくないと思う。活用するためには工夫が必要になると思う。

(前田企画課長)

欠席委員からの意見を預かっているため、披露させていただく。

子育て世代の方から「いい土地が見つければ、お家を建てたい」と耳にするので、町などが保有する土地を区画整備して、宅地として分譲する事に力を入れてはいかがでしょうか。定住率を上げることも、人口対策の重要な要素だと思います。

清水町は幼児期からの英語活動にも力を入れていて、大変良い事だと思います。よりこの活動を強化するためにも、英語検定の無償化をご検討頂いてはどうでしょうか。子ども達が目標に向かって努力できるように、清水町は惜しみなく教育に力を注いでほしいと思います。

6 答申

7 その他

次回の総合計画審議会については、3月の開催を予定している。次回の審議内容は清水町人口ビジョン・総合戦略の策定につきましてご審議をお願いしたいと思う。日程等については今後ご案内をさせていただきたい。

8 閉会

長時間、たくさんのご意見を賜りありがとうございました。本日いただいた委員の皆さんの貴重なご意見をこれからのまちづくりに反映していただきたいと思います。

本日は誠にありがとうございました